

## ふくろだ いせき 11 袋田遺跡

所在地：勝山市昭和町1丁目地係

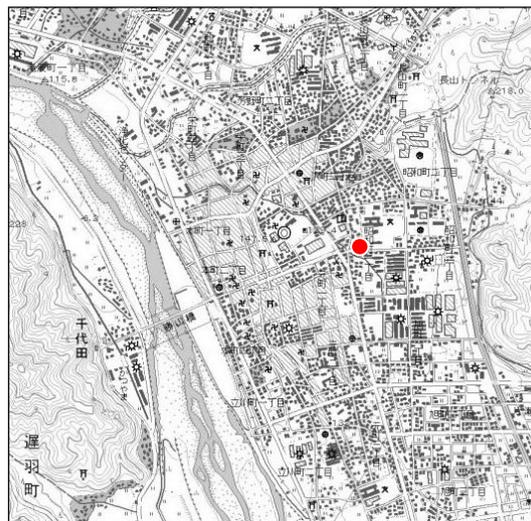
調査原因：コンクリート管推進工事

調査期間：令和4年9月～10月

調査主体：勝山市

調査面積：36.0 m<sup>2</sup>

時代：古墳時代～鎌倉時代



位置図 (S=1/50,000)

**遺跡について** 袋田遺跡は、平成31年(2019)、文化庁が認定する「日本遺産」の構成文化財に登録された「七里壁」沿いに分布し、九頭竜川右岸の河岸段丘上に立地します。勝山市による当遺跡の発掘調査は4回目となります。袋田遺跡としては調査事例が少ない古墳時代から鎌倉時代の生活痕跡が見つかり、右岸の河岸段丘上における当時の暮らしを知る上で貴重な発見となりました。調査地は、西側に大蓮寺川が流れ、今回の調査成果はこの河川と関係がある状況でした。そして、当遺跡は奈良・平安時代が中心ですが、鎌倉時代の白磁碗などが見つかり、古代から継続した集落が付近にあったことを物語る大きな成果となりました。

**主な遺構** 6m方形の調査地から径4mほどの円形に掘り込んだところ、小さな穴が4基、見つかりました。また、調査地中央付近には南北方向の落ち込みを壁面の土層断面で確認できました。この落ち込みの土層堆積は、上層に細かい砂質土、下層に粗い砂質を多く含むものでした。この状況から、水が流れ込み、水の堆積作用で堆積した土層と考えられます。なお、この土層からは古墳時代～鎌倉時代の土器などが出土しており、鎌倉時代に埋没したといえます。

**主な遺物** 出土量はコンテナ箱数でいうと4箱程度です。落ち込みに堆積した地層からは、古墳時代の須恵器(坏)、奈良・平安時代の須恵器や土師器、そして鎌倉時代の白磁碗などが見つかりました。地山直上で出土した石製品は打製石斧、磨石、台石ですが、詳しい時期を特定することはできませんでした。(藤本康司)

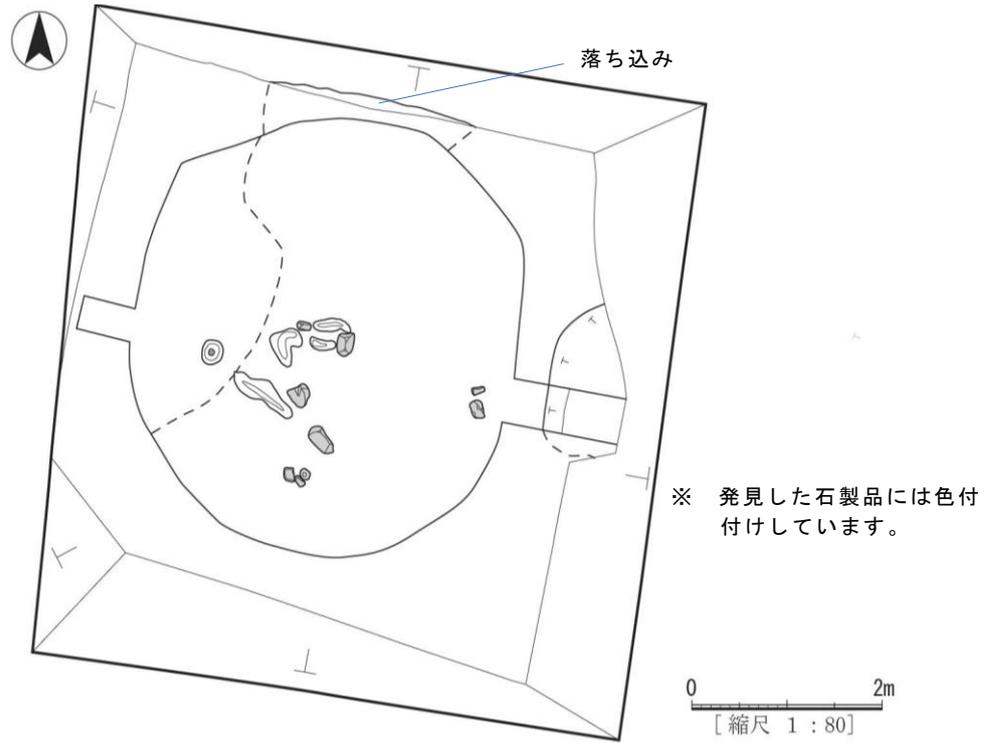


図1 調査地平面図



写真1 調査地全景(東から)



写真2 土器の出土状況(西から)



写真3 地山直上で発見した石製品(北から)